

令和三年度 筑西市立下館中学校 第三学年国語科学年未テスト 問題用紙

令和四年一月十三日(木)実施

三年

組

番・氏名( )

一次の①～⑥の―線の漢字には読み方を書き、⑦～⑫のひらがなは漢字で書きなさい。(必要があれば送りかなも書くこと。)

- |          |               |
|----------|---------------|
| ① 名残惜しい  | ⑦ 成長がいちじるしい   |
| ② 策に溺れる  | ⑧ 雑踏にまぎれる     |
| ③ 思慕の念   | ⑨ つやを出す       |
| ④ 綻びを繕う  | ⑩ 会話がはずむ      |
| ⑤ 寄付を募る  | ⑪ きんこうを保つ     |
| ⑥ 手で顔を覆う | ⑫ 顔のとくちようを覚える |

二 次の「故郷」を読んで問題に答えなさい。

古い家はますます遠くなり、故郷の山や水もますます遠くなる。だが名残惜しい気はしない。自分の周りに目に見えぬ高い壁があつて、その中に自分だけ取り残されたように、気がめいるだけである。すいか畑の銀の首輪の小英雄の面影は、元は鮮明このうえなかつたのが、今では急にぼんやりしてしまった。これもたまらなく悲しい。

母とホンルとは寝入った。

私も横になって、船の底に水のぶつかる音を聞きながら、今、自分は、自分の道を歩いているとわかつた。思えば私とルントウとの距離は全く遠くなつたが、若い世代は今でも心が通い合い、現にホンルはシェイションを慕っている。せめて彼らだけは、私と違って、互いに隔絶することのないように……とはいっても、彼らが一つ心でいたがために、私のように、おだの積み重ねで魂をすり減らす生活を共にすることは願わない。また、ルントウのように、打ちひしがれて心が麻痺する生活を共にすることも願わない。また、他の人のように、やけを起こして野放図に走る生活を共にすることも願わない。希望をいえば、<sup>①</sup>彼らは新しい生活をまたなくてはならない。私たちの経験しなかつた新しい

(1) ①「彼らは新しい生活をまたなくてはならない」とあり

ますが、否定している今の生活の例を三つ『生活』につながらるように、十五字以内で答えなさい。

(2) ②「手製の偶像にすぎぬのではないか」とありますが、

『手製の偶像』とはどんなものですか。次から一つ

選んで記号で答えなさい。

ア 作る人の個性があり、ぬくもりが感じられるもの。

イ 実体のないものを形にして、価値を高めたもの。

ウ 真心を込めて、手間と時間をかけて作り上げるもの。

エ 自分だけが価値を感じ、望みを託してすがつている

もの。

(3) ③「私」が手製の偶像にすぎぬのではないかと考えたのは

なぜですか。理由を次から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 目に見えるものだけを信じ大切にしているから。

イ 実体のないものに価値を感じ望みを託しているから。

ウ 自分の思いは他の人に理解されるものではないから。

エ 生きる目的や意味は、一人一人異なっているから。

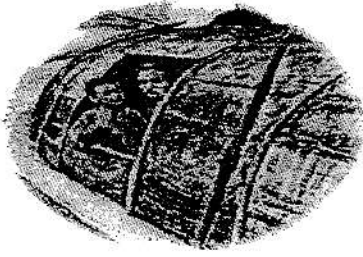
生活を。

希望という考えが浮かんだので、私はどきどきとした。たしかルントウが香炉と燭台を所望したとき、私は、相変わらずの偶像崇拜だな、いつになったら忘れるつもりかと、心ひそかに彼のことを笑ったものだが、今私という希望も、やはり手製の偶像にすぎぬのではないか。ただ、彼の望むものはすぐ手に入り、わたしの望むものは手に入りにくいだけだ。

③ まどろみかけた私の目に、海辺の広い緑の砂地が浮かんでくる。その上の紺碧の空には、金色の丸い月が懸かっている。思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。④

④ ある。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。

(魯迅「故郷」より)



(4) ③「まどろみかけた私の目」に浮かんできたのは、どのような画面ですか。次から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 以前感じた故郷の美しさとは、別の美しさが新しく加わった画面。

イ 以前から今まで変わらずに持ち続けている、人生を象徴する画面。

ウ ルントウと「私」に再び友情が結ばれ、二人で故郷を旅立つ画面。

エ 若い世代が新しい生活を送ることで生まれる、理想の故郷の画面。

(5) ④「もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ」とはどういうことですか。『道』という言葉が『希望』に置きかえて、作者が言おうとしていることを三十字以内で書きなさい。

(「く」ということ)につながるように書くこと)

三 次の文章を読んで、問題に答えなさい。(句読点や記号も一字とする)

4

膨大なデータと強大な計算力で最適解を導き出す人工知能。それに対し人間は、経験からつちかった「美意識」を働かせて物事を判断しているといえます。人工知能が社会のあらゆる場面で意志決定に関与するようになれば、人間の「美意識」にはとても受け入れがたい判断をすることもあるでしょう。また、将棋ソフトの評価値が実はそうであるように、人工知能の判断が常に絶対的に正しいわけでもありません。つまり、私たち人間は、どこまで評価値の判断を参考にするかまで含めて、<sup>①</sup>選択肢を考えていくことが必要になります。そして、このような判断力は、普段から自分で考えることでしか、養われないのです。

人工知能が浸透する社会であっても、むしろそのような社会だからこそ、私たちは今後も自分で思考し、判断していく必要があるといえます。人工知能への違和感や不安を拭い去るのは難しいことですが、<sup>②</sup>このような社会の到来が避けられない以上、人工知能をいわば「仮想敵」のように位置づけてリスクを危惧するより、今後どのように対応するかを考えていくほうが現実的ではないでしょうか。

(1) ①「選択肢を考えていくこと」を言い換えた言葉を三文字で抜き出さない。

(2) ②「このような社会」とはどのような社会ですか。十一文字で抜き出さない。

(3) 人工知能を活用する方法として、挙げられていることを次から二つ選んで記号で答えなさい。(完全正答)

ア 人工知能の判断に伴うリスクを考えること。

イ 人工知能の判断に条件なしに従うこと。

ウ 人工知能の判断を第二の意見として使うこと。

エ 人工知能の考え方をまねて、結論を出すこと。

オ 人工知能の思考を学び、考え方を増やすこと。

さらにいえば、人工知能は、うまく活用すれば人間にとって大きな力となるはずです。将棋ソフトは人間が考えもしない手を指すと述べましたが、それは、自分の視座が変わるような見方を教えてくれるということでもあります。「自分はこう思うが、人工知能はどう判断するのか。」と、あくまでセカンドオピニオンとして人工知能を使っていく道もあるでしょう。また、人工知能が出した結論を基に、それが導き出された過程を分析し、自分の思考の幅を広げていく道もあるはずです。人工知能に全ての判断を委ねるのではなく、人工知能から新たな思考やもの見方をつむいでいこうとする発想のほうが、より建設的だと思います。

③ 実際、将棋界では既に、人工知能が提示したアイデアを参考にして新しい手が生み出されたり、そこから将棋の技術が進歩したりするケースが多く起こっています。人工知能によって人間の「美意識」そのものが変わっている顕著な事例だといえるでしょう。人工知能が学習するいっぽうで、人間の側も人工知能から学ぶ。人間と人工知能が共に生きる時代の、<sup>④</sup>新しい関係がそこにあるように思います。

(羽生善治「人工知能との未来」より)

(4) ③「人工知能が……進歩したりするケース」では、人工知能は人間の何を変えましたか。九字で抜き出しなさい。

(5) ④「新しい関係」が具体的に述べられた一文を探し、初めの七字を抜き出しなさい。



四 次の和歌を読んで問題に答えなさい。

A 東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ  
柿本人麻呂

B 君待つと我が恋ひ居れば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く  
額田王

C 天地の分かれし時ゆ 神さびて 高く貴き 駿河なる  
山部赤人  
富士の高嶺を 天の原 振り放け見れば 渡る日の 影も隠らひ  
(以後 省略)

D 田子の浦ゆうち出でて見れば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける  
(1)

E 多摩川にさらす手作りさらさら何ぞこの兎のこた愛しき  
(2)

F 父母が頭かき撫で幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる  
防人歌

G 新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事  
大伴家持

(2) Aの和歌から感じられる様子を次から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 明るくにぎやかな様子。

イ 静かで変化のない様子。

ウ 力強くいきましい様子。

エ 幻想的かつ雄大な様子。

(3) Bの和歌の「恋ひ居れば」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(4) Cの和歌は「長歌」の形式を取っている。長歌の後に詠み添えられるDのような和歌を何といますか。

① ①にあてはまる言葉を漢字で書きなさい。

(5) Eのような東国地方の和歌を何といますか。

② ②にあてはまる言葉を漢字で書きなさい。

(6) Fの和歌に詠まれている思いを次から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 兵士として任務に当たることへの抱負。

イ 両親に見送られ任地へ向かうせつなさ。

ウ 自分が幼い頃の両親との温かい思い出。

エ 今後の防人としての仕事に対する不安。

(7) Gの和歌にはどんな願いが詠まれていますか。次から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 美しい雪がもつと降り積もってほしい。

イ 正月を迎えた楽しさが長く続くように。

ウ よいことがどんどん重なってほしい。

エ よいことが多くの人に訪れるように。

H 人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香ににほひける

紀貫之

I 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

藤原敏行

J 道の辺に清水流るる柳かげしばしとてこそ立ちどまりつれ

西行法師

K 玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする

式子内親王

(1)「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の三大歌集について、それぞれの歌集が成立した時代を漢字で書きなさい。

- ① 万葉集：……(1) 時代
- ② 古今和歌集：……(2) 時代
- ③ 新古今和歌集：……(3) 時代

(8) Hの和歌では何と何を対比していますか。それぞれ和歌の中の語句で答えなさい。(完全正答)

(9) Iの和歌の評として適切なものを次から一つ選んで記号で答えなさい。

A 目には見えない秋の情景を心の中に思い浮かべている歌である。

I 秋の到来を感じつつ秋らしい光景でないことを惜しむ歌である。

U 聴覚を働かせて、季節の微妙な移ろいを詠んだ繊細な歌である。

E 季節の変化を感じ、年月の移ろいの速さに驚いている歌である。

(10) Jの和歌は夏の和歌ですが、涼しさを感じさせる語が二つあります。それを二字と三字で書きなさい。

(11) Kの和歌の「玉の緒」は「命」を意味しますが、こゝでは誰の命ですか。次から一つ選びなさい。

A 秘密を知る人    I 作者(自分)

U 恋人    E 家族

(12) II線のような表現技法の工夫を何と言いますか。



「義務教育終了にあたり、感謝の気持ちをもとう」というテーマで話し合いを行いました。その話し合いの結果、『ボランティア活動』を行おうという意見にまとまりました。そこで、あなただったら、どんなことができるか考えますか。学校に対して、地域の方々に対してなど、できるボランティアについて考えて、百六十字以上二百字以内で書きなさい。

条件

- ① 二段落構成とすること。
- ② 第一段落には、誰(どこ)に対して、どんな活動ができるかを書く。
- ③ 第二段落には、一段落目の理由を書く。
- ④ 文末は丁寧な言い方(敬体)で統一する。
- ⑤ 誤字・脱字、作文用紙の使い方に注意して書く。

※ タイトルは書かないこと。